第２回市民参加推進会議

議論のポイント

「市民参加の実質化につながるマニュアルの見直し」の検討

これまでのマニュアルが果たしてきた役割

▼　現状

実施	手続	平準化
市民参加の手法を確認	意見の募集・整理・公表までを確認	職員が一定の水準で手続を進められる

➢実務を「細かく・漏れなく」示すことで、手続の標準化を図ってきた

マニュアルの見直しを図る理由

①実務の平準化

従来のマニュアル整備等により、
実務の進め方が一定程度定着

＋

②求められる役割の変化

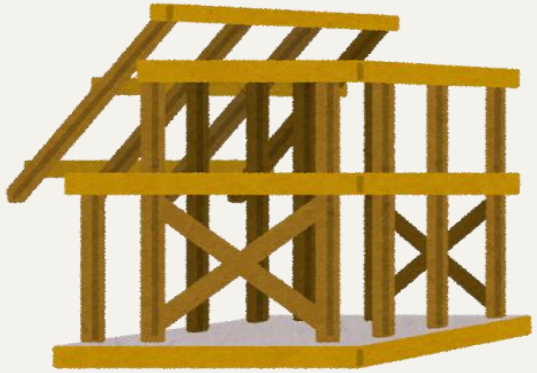
「どう市民参加を実質化（意味のあるもの）にするか」が重要に

そのまま足すと・・・

＝ ボリュームが増え、必要な情報が探しにくくなる

見直しの方向性ースクラップ・アンド・ビルド





【スクラップ】
実務部分をコンパクトに

・重複する内容を整理
・細かな手順を簡素化

→「何をすれば良いか」は、簡素に確認できる形へ

【ビルド】
考え方・姿勢を加える

・どのような姿勢で市民の声を聴くのか
・「やっただけ」にしないためには何が必要か

議論いただきたいこと

➢ ①　実務部分
・現行マニュアルのうち「残すべきもの」、「簡素化できるもの」は何か

➢ ②　考え方・姿勢
・職員が市民参加を実施する際に、どのような考え方・姿勢を持ってほしいか

➢ ③　課題・改善点
・「文字が多い」、「イラストを増やした方がいい」などのレイアウトイメージに対する意見等